

福島現地報告

忘れてはいけない現実がある

福島は、いま

佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長)

8月31日のW杯最終予選。日本 vs. オーストラリア。まさに勝てばW杯に行ける大一番を日本は制した。オーストラリアといえば、世界一のウラン埋蔵量を誇り、アメリカ、日本が輸入している。アメリカに行けば、核兵器が作られ、広島、長崎に投下された。劣化ウラン弾は、イラクに落とされた。福島では事故を起こし、オーストラリア産のウランが人々を苦しめているのだ。

福島の思いを、日本中が沸き立つW杯最終予選にぶつけようという企画。約一か月かけて、福島で暮らす人々や、来日中のオーストラリア人に話を聞いた。

●核兵器禁止条約に反対する日本とオーストラリア

原爆が落とされてから、72年目を迎えた。田上富久長崎市長は、8月9日の平和式典でこう述べた。「最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです」。

先立つ7月7日、核兵器禁止条約が採択された。日本とオーストラリア両政府は、条約に反対したのだ。「核兵器のない世界を目指してリーダーシップをとり、核兵器を持つ国々と持たない国々の橋渡し役を務めると明言しているにも関わらず、核兵器禁止条約の交渉会議にさえ参加しない姿勢を、被爆地は到底理解できません」と、田上市長は厳しく日本政府の姿勢を非難した。

条約の採択に尽力したのは、広島、長崎のヒバクシャだけではない。オーストラリアの先住民スー・コールマン・ヘーゼルダインさんは、核実験の被害者だ。核兵器禁止条約交渉会議に参加し、発言することで条約の採択に貢献した。オーストラリアでは、イギリスの要請を受け入れ、1950年代に12回もの核実験が行われている。原水爆禁止世界大会の直前に、広島でヘーゼルダインさんにサカベコに書いてもらった「核なき世界を永遠に！」は力強いメッセージだ。



会津の伝統玩具「赤べこ」にサッカーのユニフォームをペイントしたJIM-NETのマスコット「サカベコ」。「核なき世界を永遠に！」と、ヘーゼルダインさんは書いた。

田上市長は、「ノーモア・ヒバクシャ」を訴え、「長崎は放射能の脅威を経験したまちとして、福島の被災者に寄り添い、応援します」と決意を宣言している。

若手小説家のマデライン・ディッキー氏は、オーストラリアのウラン鉱山と福島を結び付けた作品を執筆中だ。

「オーストラリア政府は方針を変えて、新しいウラン鉱山を発掘できるようにしました。日本の原発に再稼働してもらわないと儲からない。今回の小説を書こうと思ったきっかけは、同年代の友人にウラン採掘にかかわっているエリートが結構多いことです。お金になるからです。しかし、主に先住民の人たちに多大なる犠牲を強いているし、福島の人たちには、申し訳ないと思っています。日本だけでなくオーストラリアにも責任があるんです。そのことをオーストラリア人に気づいてほしい」。

NEWS

- 【福島現地報告】忘れてはいけない現実がある 福島は、いま 佐藤真紀 (JIM-NET 事務局長) 1
- 【イベント】福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2017 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト 崔 麻里 (JIM-NET 広報・イベント担当) 3
- 【イラク現地報告】JIM-NETハウスとモスルの今 齊藤亮平 (JIM-NET アルビル事務所) 4
- 【ヨルダン現地報告】シリア難民の未来と一緒に応援しましょう 内海句子 (JIM-NET 海外事業担当) 5
- JIM-NET へのご支援をよろしくお祈りします 7
- 【速報!】2018 チョコ募金、ただいま準備中 大嶋 愛 (JIM-NET チョコ募金担当) 7
- 鎌田代表のつぶやき「JIM-NET はたくさんの好意に支えられている幸せな NPO だ」 8

●大熊町ふるさと応援隊

除染が進み、避難指示区域がどんどん減っている。しかし、原発のある大熊町の避難指示解除は別だ。人口約1万人の大半、いわき地域に4,639人、会津地域に1,116人が、現在も避難している。大熊町はオーストラリアのバサースト市と姉妹都市で、事故当時は先方から、町民を受け入れようという温かい提案もあったらしい。義援金が届けられたり、交流が続いている。

「大熊町ふるさと応援隊」の代表、渡部千恵子さんに伺った。

「私は保育士で大熊町の職員でした。地震が起き、体を支えていられない程の揺れでした。児童館が避難場所にもなっていたので、訪れた近所のお年寄りなどに毛

布を配ったりしました。夜になって、原発が危ないかもしれないということになり、大熊中学校に避難しましたが、役場でおにぎりを作ったり、翌日の炊き出しの準備をして夜を明かしました。

次の日の早朝には避難命令が出たのです。田村市へ向かいましたが、バスの運転手もどこへ行っていいかわからない。小学校や中学はどこへ行っても満員で国道288線沿いに段ボールで『避難所』って書いてあるのを見つけてようやく落ち着きました。本当に着の身着のままです。4月には会津に大熊町の機能が移されるというので、会津で一年を過ごし、定年を迎えました。」



●原発ができた頃の大熊町は？

「私が中学の頃から原発の建設作業が始まりました。貧しい家庭は、出稼ぎで食べていました。そんな町が、出稼ぎに行かなくてもよくなり、目に見えて豊かになっていきました。作業員が外からやってきて、飲み屋街ができたり、パチンコ屋ができました。」

東京の専門学校に通っていた時は、『東洋一、世界で3番目の原子力発電所の町から来ました！』って自己紹介していました。安全、安心、クリーンなエネルギーができるって。町は福祉に力



大熊町の中心部。商店は、地震の日のまま「営業中」になっており、民家は崩れたままだ。

を入れていて、離婚して母子家庭になったら大熊に移れ、と言われていたぐらいです。住宅団地もたくさんできて、よそ者を排除するという事はなかったです。」

●これからの日本は？

「原発はなくても、再稼働しなくても電気はまかなえる。(核燃料の)ごみの捨て場もまだ決まっていない。再稼働して、万が一こういう事故があったら、根こそぎ崩れてしまうことをわかるべきですね。原発で利益を得ている人は、あれだけの反対運動を見て、何で耳を傾けられないのかな。知識がなかったからみんな信じちゃって、こうなってしまったからには見直さなければいけない。」

●これからの活動は？

「知ってもらうことですね。自分の目で見てもらうこと。いまだに人が住めないと思っている人が多い。もう自宅に帰るときは防護服なんて着ないです。除染に関しては、そこに住むかどうかは別として、きれいな町に戻してほしいという思いはあります。」

仮設から復興住宅に移ると、人間関係が疎遠になる。戸別訪問して話し相手になるとか、そういう活動が必要です。しかし一方で、避難先で暮らしていくと決心した人は、土地の人とうまくやっていきたいから避難していることを隠している人もいます。特にいわきは、一部の避難者が嫌がらせを受けている。いわきも津波の被害を受けていますが、賠償金はない。でも避難してきた人は東電の賠償金をもらっているから…という気持ちもわかります。厳しい現実ですね。」

渡部千恵子さんご夫妻に案内してもらい、大熊町に入った。原発に近づくとガイガーカウンターの警戒音が鳴りだす。

8μシーベルト。汚染水をためたタンクの向こう側に2号機の建屋が見える。イノシシの子どもたちが飛び出してきた。

渡部さんのお宅は3km圏内に入っており、中間貯蔵施設になるらしい。家は3世帯が住むために改築したばかりだったそうだ。町には、頻繁に出入りするトラックの交通整理のためか作業員がところどころに立っている。フレコンバックを貯蔵する施設が真新しい。

一方で民家はあの日のままで朽ちていくのみである。



◎会津若松に開校した大熊中学校

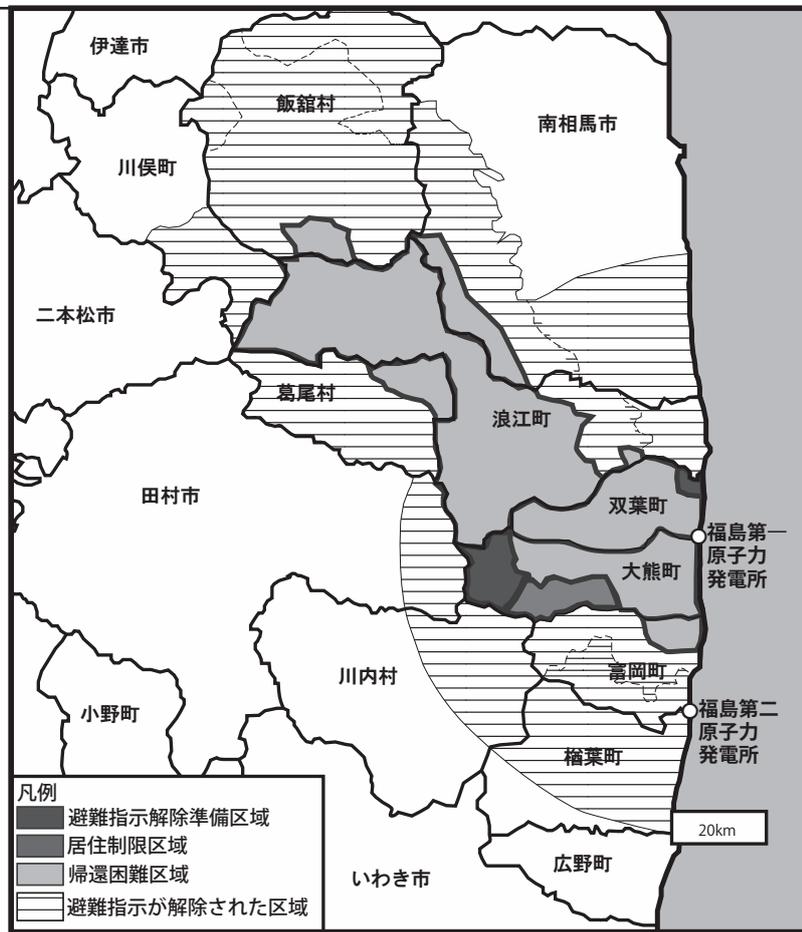
大熊町の人たちが避難しているいわき市と会津若松市も訪問した。会津若松市には大熊中学校が移転していた。2011年度は371名が被災して、4月17日に会津若松市で開校した時は、6割ほどの210～220名が戻っていた。

しかし、今は20名になってしまった。特に一年生は1人しか入ってこなかったという。子どもたちは、会津若松市の中学を選ぶ。

渡部友彦さんは、千恵子さんの次男で大熊町役場の教育委員会で働く。

「年に一度は、大熊のことを忘れないためのイベントもやっています。大熊の以前の写真と、事故後のフレコンパックが積まれている写真とかを見せます。子どもたちは、感想として『故郷を取り戻したいです』とか、ものすごくいいことを書いてくれます。

しかし最近は、子どもたちに町を背負わせるのはどうなのかな、という気にもなってきました。自分が子どもだった時には、町のことなんか考えなかったです。自分のやりたいことだけやっていた。自分の将来のことだけを考えて自己実現していくことが、ゆくゆくは町のためになるんじゃないかと。大熊(が故郷)というのを、どこかに持っていてくれたらいいな、と。」



イベント

福島を伝え、再生可能エネルギーを学ぶ 2017 福島・ドイツ高校生交流プロジェクト

崔 麻里 (JIM-NET 広報・イベント担当)

8月18日、福島の高校生がドイツでの滞在19日間を終えた報告会が、東京と福島で開催されました(NPO法人アースウォーカーズ主催、JIM-NET 協力)。

2011年に起きた東日本大震災を経験した高校生たちが、それぞれの経験を言葉にして、英語で伝えたこと、再生エネルギーと現代史を積極的に学ぶ姿勢をドイツで学んだことなどを、熱い言葉で語ってくれました。ドイツの学校と授業・地域ごとの電力会社の取り組み、平和への姿勢、エネルギーに関する現状等を中心にした報告でしたが、どの高校生も「自分自身の意見を持ち、明確に述べる」ことを意識して発表していたことが印象的でした。

彼らとともに研修に参加したドイツ人のデニッツさんは、高校

を卒業したばかり。彼のスピーチの一部を紹介します。

「チェルノブイリ、福島原発事故を経験しても、人間はなぜ原発を続けているのだろうか。僕たちが参加しないと民主主義は成り立たないし、僕たちが責任を持って社会と政治を変えていかなければならない。僕一人の力ではできないが、皆と力を合わせればできる。これは、地球人としての意見だ。絶対に未来を変えることはできる。皆でより多くを学び、一緒に福島を、日本を、世界を変えよう！今の世界は僕たちの罪ではない。でも、これからの世界を変えることができなければ、それは僕たちの罪になる。」



ドイツ南部の「黒い森」ハイキング



市民団体が設立し、自然エネルギーのみで発電する「シェーナウ電力会社」訪問

写真提供：NPO法人アースウォーカーズ

JIM-NETハウスとモスルの今

斉藤亮平 (JIM-NET アルビル事務所)

❖オープンから半年を迎えて

JIM-NET ハウスがオープンし、9月で7か月目に入りました。モスルなどイラク国内から治療に訪れる小児がん患者は減ることなく、今日も支援先であるナナカリ病院には多くの子どもたちが治療に訪れています。病院内の薬局には無償で処方される抗がん剤がなく、自分たちで薬を購入しなければならないケースも非常に多くなっています。患者家族には子どもの看病だけでなく、経済的にも大きな負担がのしかかっており、ナナカリ病院の先生方からもため息が聞こえてきます。

JIM-NET ハウスには患者家族が訪れ、それぞれが置かれている現状を切実に訴えています。

モスルから来た患者家族は、IS 支配下における死と隣り合わせの生活、また日に日に弱る我が子に何もしてあげられなかった時の話、そして治療に苦しむ我が子の話をして。それらにローカルスタッフたちは丁寧に耳を傾けています。

❖窮状を訴える患者のお母さん

先日病院内で、シリアから治療に訪れているある患者さんに出会いました。

ローリン（10歳）は、シリア北部カミシリから急性リンパ性白血病の治療のためナナカリ病院に通っています。シリアの首都ダマスカスでも治療を受けられるのですが、治安の問題上、ダマスカスへは飛行機で行く以外方法がなく、ローリンの家族には1人片道100ドルの交通費を支払える経済力はありません。

「本来ならダマスカスの病院の方が近いし、体力のことを考えるとその方がいいんだけど…。正直それが出来るだけのお金がないの。カミシリの物価上昇もすごいよ。だから今はシリアの家からイラク国境まで車で行って、イラク国内に入ってからタクシーでナナカリ病院に来てるわ。」

ローリンのお母さんはシリアでの生活や娘の病状を案じる日々だといい、疲れ切った表情を覗かせていました。



ローリン（10歳）※昨年のチョコ募金で缶の絵を描いたローリンとは別の患者です

❖依然として緊張状態にあるモスル

モスル解放宣言が出された7月、解放を喜ぶ人々の様子が世界中に映し出されていましたが、依然として緊張状態にあり、不発弾やIS 残党による抵抗は続いています。

JIM-NET では皆様からの多くのご支援を頂き、「モスル緊急支援」でモスルのがん専門病院であるイブンアシール病院への支援を行っています。これまでに170万円以上の医薬品を届けています。

8月にローカルスタッフがモスルへ医薬品を持って行った際のレポートを紹介しします。支援が届きにくいがんの子どもたちへのご支援、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



❖ローカルスタッフによる「モスル支援レポート」

今日は2017年8月12日です。

今朝はいつもより早く目が覚めました。今日はテレビやソーシャルメディアで見たモスルの街に薬を届けに行きます。

モスルは最も劣悪で残忍な人間によって征服され、最近ようやく解放されたのです。現地に向かいながら、私は奇妙な感覚に襲われました。メディアやテレビで見た光景が今現実となろうとしていたからです。

門をくぐると同時に、どれほどの破壊が行われたかを知ることができました。そして街が言い表すことができない何かを訴えようとしているのを感じました。

街の中では、さらに多くの破壊を目にしました。街のほとんどが破壊されていました。建物は壊され、通りはゴミと割れたガラスでいっぱいでした。戦車によって道路はズタズタになり、橋

の下には死体が何体か放置されており、火薬と死体の臭いがしました。人々を助ける場所であるはずの病院も壊され、助けを必要としていました。壊された大きな病院を見た時、こんな大きな病院が破壊されることが信じられませんでした。

モスルのイブンアシール病院で、JIM-NETの支援を受けていた患者であるマイサム君とその家族に会いました。彼らはモスル解放後、家があるモスルに戻って生活していました。マイサム君の母親は、「JIM-NETの支援に大変感謝しています」と言い、息子の病気を更に苦しめた戦争について言葉少ないながら話してくれました。

彼女の目には生きることや生活を再建することへの希望が見えていましたが、それには多くの時間と沢山の人からの支援が必要です。

モスルの街を見ながら、この街を再建するには、大きな努力が必要だと思いました。2年にわたる戦争の末に、モスルに何が残っているのでしょうか。

モスル解放のために、子どもを殺された母親たちは何を思うのでしょうか。目の前の現実、メディアが伝えるよりもっと多くのことを伝えていました。

モスルの人々は、彼らが直面してきた困難にも関わらず、生きたいと願っています。



マイサム（4歳）

彼らは「戦争をやめて欲しい」「私たちは平和に暮らしたい」と私達に伝えたいのです。そしてその想いは平和を願う世界中の人々からの支援によって支えられるべきです。

モスルの人々は、都市の再建と復興のための、日本の人々からの支援も待っています。

ヨルダン現地報告

シリア難民の未来を一緒に応援しましょう

内海句子（JIM-NET 海外事業担当担当）

◆シリアの現状

2011年3月から続く「シリア紛争」は、すでに7年目です。国連仲介のシリア和平会議が回を重ねても功を奏さない一方で、5月のロシア・イラン・トルコ共催の和平会議でシリア内に4つの「緊張緩和地帯設置」が決まり、7月の米露首脳会談では、シリア南部のクネイトラ、ダラー、スワイダ3県の停戦合意がなされました。

しかし、このような政治的な動きにシリア難民が置き去りにされている懸念を拭い去ることができません。UNHCRに登録されている500万人を超えるシリア難民数に政治的な動きがどう影響するか、今はまだ様子見の段階で、「緊張緩和地帯」からヨルダンにきているシリア難民に聞いても「まだ帰らない」という返事ばかりでした。

◆ヨルダンのシリア難民

シリアの南隣のヨルダンには、8月時点で660,422人のシリア難民が登録されていて、10人に1人がシリア難民と言われています。

2016年6月、シリアとヨルダンの国境で「イスラム国（IS）」兵士による自爆攻撃があり、ヨルダン人7人が死亡したことを

受け、ヨルダンはただちに国境を封鎖しました。国境封鎖の前は、ヨルダンとシリアの間で「シリア紛争戦傷者の治療目的での入国」を認めるシステムがあったため、多くの負傷者がヨルダンの病院で治療を受けていたので、ヨルダンのシリア難民の15人に1人が負傷者で、その3割が重度の障害者と、負傷者と障害者の割合が高くなっていました。しかし封鎖後は治療目的でも入国できなくなり、紛争負傷者の新患はいなくなりました。

◆JIM-NETの活動

JIM-NETは、「シリア紛争の直接の被害者」で、もっとも弱い立場にある難民の負傷者および障害者を対象に、2013年以降、義肢の支援、医療機関への移送サービスやリハビリテーションの提供、障害者の社会参加活動支援を実施してきました。2017年度は、以下の活動に資金提供と活動へのアドバイスをしています。

【医療機関への移送サービス】

紛争で負った傷が重く、治療が長引いている人たちが今でもいます。通常の移動手段はバスですが、車いすを使っていたり、ギプスや骨折した骨をつなぐ金属をはめていたり、痛みで長く同じ姿勢でいられなかったりすると、バスには乗れません。タクシー

ではシリア難民の多く暮らしている北部の都市から病院のある首都のアンマンまでの料金が、片道で 30-40JD (5500 円前後) と高額になり払いきれません。そこで、身体的理由や経済的な理由で治療をあきらめなくてすむように、居住地から医療機関までの移送サービスを提供し、月平均で 30 人弱が 75 回ほど利用しています。

運転手は、自身もシリア難民のサミールさんで、ほぼ毎日アンマンと 100km ほど離れた北部の都市を往復しています。シリアではビジネスマンだったサミールさんは運転手が本職ではありませんが、「シリア人ために役に立てるなら」と頑張っていて、利用者の信頼も厚いです。

利用者の一人、19 歳のハサンさんは、12 歳のときにシリアの家の近くで地雷が爆発、そのケガで胸から下と左半身がマヒして車いす利用者です。爆発の際に一緒にいた兄は即死、双子の兄も全身に傷を負い這って逃げて、動けないまま残されたハサンさんの助けを呼びに行ったのだそうです。

2014 年、15 歳のときに一家でヨルダンに移りました。最初に 2 年くらい住んだ家は大家さんが家賃なしで貸してくれて、ハサンさんは近所の病院に通院していたそうです。しかし、ある時「この家を使うことになった」と言われ、出ていかねばならなくなりました。安く借りられる家を探したら、アンマンから離れてしまい、病院も遠くて通院しなくなりました。そして今年 5 月に無料のリハビリテーションセンターを知って初めて行ったときに、JIM-NET の移送サービスと偶然出会い、利用するようになりました。彼は「最初は信じられませんでした。無料で遠くの家まで来てくれて本当にありがとうございます。日本の人たちに心から感謝しています。障害者だからとタクシーを断られるのはとてもつらいんです。でもサミールさんが来てくれると安心です。僕は、体がよくなれば、もっと自分でできるようになって、家族の世話も減らせますから、リハビリを続けたいんです」と話してくれました。



ハサンさん家族と運転手のサミールさん(右)

【女性障害者と子どものリハビリテーション支援】

イスラム圏の文化的な慣習から男女が一緒になる一般のリハビリテーションセンターにいかれない女性のために、女性専用のリハビリテーションセンターと訪問リハで理学療法を提供しています。スタッフ 4 名も女性で、月に約 30 人が 80 回ほど利用しています。

【女性障害者の社会参加活動】

女性障害者の社会参加支援では、4 月からは、「女性障害者の可能性を社会に伝える人形劇」を作りはじめ、脚本も人形も小道具もすべて手作りで仕上げました。人形劇で伝えたいのは、「障害のある女性だってできる、助けられるだけではない」ということ。車いすに乗った歌手の活躍と障害を誤解した男の子のお話でこのメッセージを伝えます。8 月末までに、50 ~ 100 人の観客を集めて 5 回の公演を行いました。

7 月の初公演の後、助演女優を努めた 15 歳で車いす使用者のサミールさんは「最初すごく緊張しちゃってもうできないって思ったけど、始まったらすごくうまくできた」と笑顔でした。客席で見ていた彼女のお姉さんも「子どもたちにはちゃんと伝わったと思います。妹はよくやりました。感動しました」と興奮して話していました。彼女たちは、公演後には振り返りの時間をもち、人形劇の質を上げる努力をしています。



難民との活動で難しいのは、何より「先の見通しが立たない」ことです。刻々と伝えられるシリア情勢に、シリア難民の心も生活も揺れ動かされます。そんな中で私たちの活動は、「今そこにいる人に必要なこと」への支援で、それは、彼らが「いつどこにいてもやっていけるようになる」ための支援ともいえます。

これらの活動に、あと 150 万円が必要です。彼らの未来のために、応援をよろしくお願いします。

☆ JIM-NET へのご支援を、よろしくお願いいたします ☆

イラク事業、ヨルダン事業、それぞれ活動資金が十分に集まっておりません。皆様のあたたかいご協力をお願いいたします。

◆郵便振替 同封した振込用紙をお使いください。

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット

◆クレジットカード JIM-NET のホームページから決済できます。

◆お宝エイド あなたの家に眠る「お宝」が寄付になります。

詳しくは、折り込みチラシ（お宝エイド）をご覧ください。

◆gooddo 1日1回ワンクリックで支援につながります！ <http://gooddo.jp/gd/group/jimnet/?md=fb>

◆かざして募金 Softbank が提供する団体支援システム。

スマートフォンの利用料金の支払いと一緒に寄付ができます。【かざして募金】で検索→支援団体リスト

★募金に関するお問い合わせは担当者まで。03-6228-0746 / info-jim@jim-net.net

速報!!

2018チョコ募金、ただいま準備中

大嶋 愛 (JIM-NET チョコ募金担当)

皆様こんにちは。今年度よりチョコ募金担当となりました大嶋愛と申します。すでに缶のサンプルが出来上がり、いよいよチョコ募金の季節が近づいてきました。

♡ 2018 チョコ缶のデザインは？

3年間続いた「いのちの花」とは違い、ポップなデザインになりました（写真下）。



病院の友だちの絵を描いてくれたのは、バスラに住むスースさんです。11歳のときに卵巣がんにかかりました。現在は19歳になりました。先日アルビルのチャリティイベントに来てくれ、それが楽しかったので、今は院内学級の先生として働いてくれています。

チョコ募金は13回目を数えます。皆様のご支援のおかげで治療を終えて大き

くなった少女が、今度は闘病中の子どもたちやJIM-NETの力になりたいと言ってきて、とても励みになります。

これからもJIM-NETはスースさんのように治療を終え、元気になる子どもたちが一人でも増えるよう、邁進してまいります。

♡チョコ募金の募金額変更のお知らせ

今年は原料高騰によるチョコレート価格上昇に伴い、チョコ募金1口の募金額を500円から550円に見直すこととなりました。

心苦しいお願いではありますが、今年スタートしたJIM-NETハウスをしっかりと軌道に乗せるため、変わらぬご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

チョコ募金キックオフイベントは
11/22 (水) に開催します。

チラシを同封しました。

皆様のご来場をお待ちしております。

※詳細はJIM-NETホームページ、または03-6228-0746まで。

社会貢献支援財団が行う「第48回 社会貢献者表彰」にJIM-NETが選ばれました。

「イラクにおける劣化ウラン弾が原因と思われる白血病の子ども達の医療支援活動」に対し、社会貢献の功績として、社会貢献支援財団より表彰が決まり、7月21日に帝国ホテルで開催された授賞式に佐藤事務局長が出席しました。

今回、人命救助の功績11件(18名)、社会貢献の功績17件(団体:10件、個人:7件)、総計28件が受賞しました。

鎌田代表のつぶやき

～ JIM-NET はたくさんの好意に支えられている幸せな NPO だ～

8月の初め、ぼくは台湾にいた。高齢化のスピードが世界一速いと言われている台湾で国際シンポジウムが行われ、メインスピーカーとして招待されていたのだ。

ついでに2つ、講演が入った。ひとつは台湾大学で、鎌田の本のファンが集まる講演会が開かれた。『1%の力』や福島原発事故を絵本にした『ほうれんそうは生きています』など、5冊が中国語に翻訳されている。サイン会は若い人でいっぱい、大行列である。

もうひとつは、ぼくがテレビCMに出演し、しかもJIM-NETに寄付をしてくれている大王製紙の「アテント（紙おむつのブランド）」が台湾に進出しているので、介護をテーマに講演会が行われた。どの講演会場も、椅子を追加しても入りきれないほどだった。その合間を縫って、日本テレビのクルーがぼくを追いかけた。

東日本大震災のとき、小さな台湾から200億円を超す寄付が被災地に寄せられた。南三陸病院には22億円もの寄付があり、そのおかげで海岸沿いの被災地で、いち早く最新の病院が立ち上がった。被災三県の保健センターや、保育所や公営住宅など、たくさんの建物も台湾からの寄付で建てられた。

アジアの中でなかなか、うまくいかない日本。そのなかで台湾はなぜ、世界の中で一番寄付をくれたのかについて知りたかった。106歳を頭とする4世代家族を訪ねたり、食堂に行ってお酒を飲んでいたおじさんに話しかけたりした。農村地帯に行くと、農業をしている高齢者に「震災の時に日本に寄付をしたか」と尋ねると、みんな「した」と言う。

台湾ではほとんど自由時間はなかったが、20分ほど時間ができたので、台湾屈指のパワースポットと言われる龍山寺にお参りした。寺に入るまではカンカン照りだったが、入るとダーッと大雨が降りだした。お参りしたあと、通訳のウーさんから勧められて、おみくじを引いた。二つの聖筊（せいこう：三日月型の木片）を4回も投げた。「聖筊を投げて表と裏が出ればいい」とのことだが、なんと4回連続表と裏が出た。「ものすごく珍しい」とウーさんは驚いていた。ウーさんはプロの通訳ではなく、ぼくの本のファンで日本に住んでいる台湾人。ぼくが台湾に行くと噂で聞いて、ボランティアで通訳を引き受けてくれた。

ウーさんが「雨が降ると悪いものが流れて行って、いいものがどっとやってきます。しかも聖筊が4回も成立して、おみくじもとてもいい運勢。先生、何かいいことがありますよ」と言った時、ぼくの携帯にメールが入った。JIM-NETのスタッフからだ。



台北講演の朝、集まってくれた人達に話を聞いた

「先生、嬉しい。大変高額なご寄付がありました。大阪のAさんが『遺産が入り、今までチョコ募金に協力してきたが、一番信頼できるNPOと思って、寄付を決めた』というのです。ありがたいことです」。

神頼みはあまりしないが、偶然時間が空いてお参りに行ったら大雨に降られ、雨宿りするつもりで、短気なぼくがおみくじなんか引くことはないのに、引いた。「引く前に何か祈ってください」とウーさんに言われ、心の中で「ぼくが関わっているNPOと、地域包括ケア研究所がうまくいきますように」と願いをかけた。そして次から次へ不思議なことが起きて、幸運が続いた。

モスルからISを追い出し、これからイラクは本当の復興が始まる。ここが平和になることで、世界が平和になっていくだろう。イラクに二度と暴力がはびこらないように、JIM-NETのあたたかな支援が今こそ必要になる。いただいたお金を有効に使い、世界の平和に役立てたい。

Japan Business Press

JBpress をお読みください！

☆鎌田實のヌーベルバーグ 毎週水曜日配信中

☆佐藤真紀の現地リポ：7月26日配信

「ISが消えたイラクで何が起きているか」

月額540円で会員登録すると読むことができます。

URL <http://jbpres.ismedia.jp/>

特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C 【2017/6/22 事務所を移転しました】

電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net URL <http://jim-net.org>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanIraqMedicalNetwork> Twitter https://twitter.com/jim_net

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット (募金・サポーター会費はこちらへお願いします)

★ぜひ今後とも JIM-NET をご支援ください！